



押し ゲン

Oshi-Gen

日本一の現場力へ 「懇切」を大切にする 笑顔の先導者

茨城県水戸市で進む新斎場の施工現場。その現場に、持ち前の明朗さでコミュニケーションの輪を生み出す所長がいる。現場をひとつにまとめあげ、建物の隅々にまで心遣いを行き渡らせ、高い品質を目指す。株木建設が掲げる「日本一の現場力」を実現させるために、誠実にものづくりに向き合う所長の想いに迫る。

水戸市新斎場建設工事

株木建設・菅原建設・雲井工務店・田口建設工業
特定建設工事共同企業体

【今月の推し】

- ★ **和やかな現場をつくる
所長の明るい人柄**
- ★ **現場力の原点となる
“懇切”への想い**

全社一丸で目指す ワイガヤの現場

水戸駅から南東に約一〇キロ進むと見えてくるのが、約三万平方メートルの敷地にある水戸市新斎場の施工現場。この施設は火葬・待合・式場の三つのエリアからなり、利用シーンに応じて広さや設えが異なる多数の部屋があるなど、建物としての特異性が高い。水戸市内では二つ目の斎場であり、大規模な工事ということで地元の注目度も高い。水戸市が「全ての利用者によさしい斎場」を基本方針に定めた、この施設の施工を担当するのが株木建設株式会社だ。

茨城県で創業して一〇〇年を超える同社は、県内外に事業を多角的に展開。安全・品質・工程などの仕事の見える化にも積極的に取り組んでおり、二〇〇八年には「TPS（トヨタ生産方式）」を建設業にアレンジした「※KCS改善活動」を構築し、現場と本社が一体となった情報共有も強化している。

こうした取組みのなかで、株木建設一丸となって目指すのが「日るきっかけになればと取り組んでいるのが『肩たたき運動』だ。『お互いの肩を叩く時、強く叩きすぎないようにと相手を気遣う気持ちが生まれます。そこからコミュニケーションが自然と生じ、結束が強くなると期待しています』と語る。肩たたき運動後は自然と皆から笑顔がこぼれ、その効果を実感しているという。「私たちの仕事は、数多くの職種がひとつになり、同じ目標に向かって新たな構造物を生み出すこと。日頃の何気ない交流を土台にして、建設業に必要な『仲間』としてのつながりを築くことができる」と考えています」。



朝礼時の肩たたき運動の様子
(提供：株木建設株)



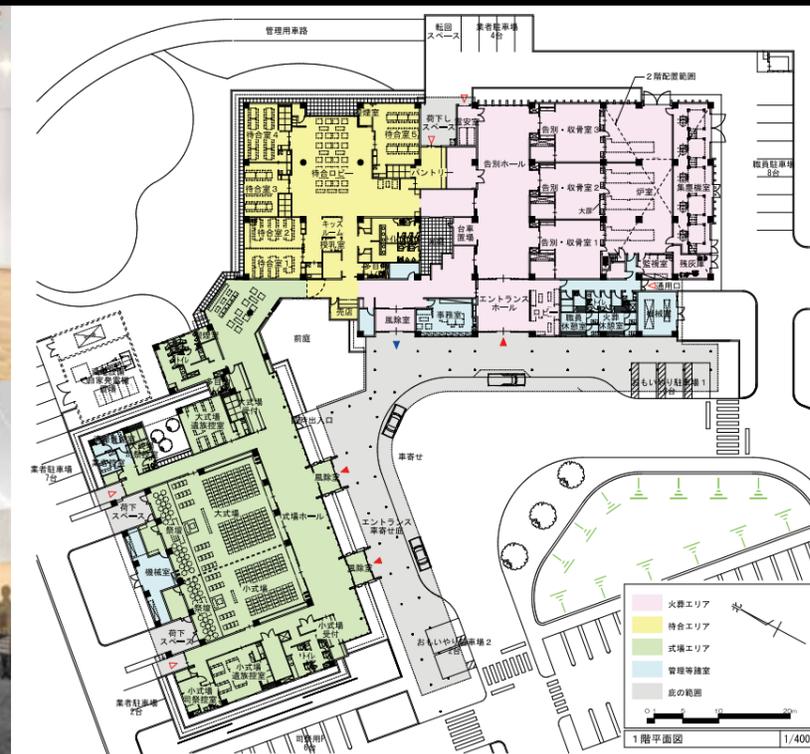
式場の出入り口前の式場ホール



大式場。大式場と小式場を仕切る壁は可動式になっているため、最大240名が収容できる一つの式場にすることも可能



待合室・待合ロビー（上）と大式場（下）の完成イメージ（いずれも提供：株木建設株）



新高場の1階平面図。建築面積約3,500㎡のなかに、火葬炉と待合ロビーを有する火葬棟、葬儀を行う式場棟があり、建物をL字型に配置している（提供：株木建設株）

本一の現場力」。二〇二三年に策定した第七次中期経営計画では「ワイガヤガヤ（ワイガヤ）と風通しを良くして『日本一の現場力』を追求する」と掲げている。この「ワイガヤの現場」をまさに体現している今回の現場、その中心人物ともいえるのが入社三五年目の八巻博明所長だ。

心が行き届く 『懇切』な現場づくり

八巻所長に、現場を運営しているなかで重要となるポイントを尋ねると、笑顔でこう答えてくれた。「何よりも『会話』が大切だと思っています。円滑な情報共有ができるよう、風通しよく何でも話せる雰囲気づくりを心掛けています」。続けて、「協力会社の方には、〇〇屋さんではなく、名前と呼ぶように意識しています」と、距離感を縮めるための何気ない工夫も教えてくれた。その人柄が起点となり、活発なコミュニケーションが生まれている。

働く仲間同士の交流を更に深め、更にものづくりへの想いについて八巻所長は次のように言葉に力を込める。「当社の社是に『懇切』という言葉があります。細かいところまで心が行き届く」という意味ですが、コンクリート打設はこの『懇切』が最も求められる工程です。その仕上がりで建物の品質が変わってしまう。毎回、緊張感をもって施工に当たっています。今回の現場では区画ごとに分割し、もっとも良い品質となる打設の総合的なバランスも検討した。また、木目のある型枠を使い、その木の表情をコンクリートに写し取る「本実化粧仕上げ」を随所に採用している。

所長が中心となって現場を動かす、現場関係者全員がコミュニケーションを取りながら、妥協を許さないものづくりを突き詰める。この姿勢が「現場力」にもつながっていくに違いない。

仲間を盛り上げる 明朗さと実直さ

現場をひとつにまとめる明るい

人柄と、ものづくりへの実直な姿勢。取材に際して協力会社の方へアンケートをしたところ、所長の人物像が更に見えてきた。

三〇年以上という長年の付き合いがあるN氏はこう語る。「『私は建築全般の知識なら広く持っているが、専門分野はわからないことも多い。専門知識をいろいろ教えてほしいです』という八巻所長の言葉が印象に残っています。所長の謙虚な人柄を象徴するものだと思います」。今回初めて現場をともしたI氏も「性格も明るく和やかな雰囲気でも話していただきたくて。人間性の豊かさを感じました」と印象を語った。他にも多くの関係者が「話しかけやすさ」を挙げている。こうした声が集まるのも、ともに働く人たちとのフラットな関係構築を常に心掛けているからこそだろう。

施工に向き合う姿を称賛する声も多い。「現場目線の確かな判断で、計画よりもいい仕上げになったことがある。所長の言葉には助けられます」と話すのはK氏。所長が「ものづくりの基礎」と話すコンク

取材の最後に建設業への想いを尋ねると、八巻所長はこう話してくれた。「困難や苦労はありますが、それを忘れさせてくれるほどの達成感が現場にはあります。工事に携わった仲間の想いがひとつの形になり後世に残る。そして、完成した建物を利用する人の笑顔に触れた時には、社会に貢献できたことを実感できます。こうした建設業の魅力は次世代にも伝えていきたいですね」。

中学生の頃からものづくりが好きで、つくりあげたものを残すことができる建設業で働きたいと決意していた八巻所長。夢をかなえ、培ってきた技術と想いは次世代へ継承されていく。現場の全員が一体となり、「日本一の現場力」の実現に向け歩み続けていく。



株木建設株式会社
茨城本店 建築部
栗田 大士 Daishi Kurita



【工事概要】

発注者 茨城県水戸市
工事場所 水戸市下入野町 地内
工期 2022年12月21日～2024年7月31日
工事内容 新斎場(式場棟・火葬棟) RC造一部S造、
地上2階建て、敷地面積約30,000m²
建築面積3,492.46m²、延べ面積3,593.97m²

火葬棟南側のRC造の底部。複雑な形状で、その仕上がりはプレキャストコンクリートを使わせるが、現地で型枠を組みコンクリート打設を行った

上/コンクリート表面に木目調を浮き出させる「本実化粧仕上げ」。下/初めての工法だったため試作を繰り返し、6回目の挑戦で成功したという(提供:株木建設株)

木の内装が柔らかな空気を生み出す待合ロビー。「子どもから年配の方まで幅広い利用者のニーズに応えた設計趣旨を汲み取ることを意識し、すべての利用者が使いやすい施設を目指して施工に臨みました」

ゲンバの推し☆を教えてください

落ち着いた雰囲気を醸し出す「稲田石」

火葬棟の告別ホールにある壁石に使用されているのは茨城県産の稲田石。茨城県西部にある笠間市で採掘される花崗岩です。国会議事堂や日本銀行本店など多くの歴史的建造物にも使用されています。美しく輝くその白さが特徴で「白い貴婦人」と呼ばれることも。地元の県産材を使用することは地域貢献にもつながっています。



八巻所長と近い距離で日々過ごしている同社建築部の栗田大士氏は、八巻所長についてこう語る。「習得した技術を若い世代に継承したいという想いが人一倍強く、自ら行動することでノウハウを周囲に見せてくれます。他人に仕事を任せきりにせず、仕事への手間暇も惜しまない方です」。

リート打設については、「毎回施工不良のない素晴らしい躯体が完成します」と言う。Y氏は人柄への考察を交えつつこう語った。「八巻所長は新技術や工法への探求心が旺盛な方です。常に問題意識を持ち、自ら実践して技術を体得されています。まさに事上磨練。底なしの探求心は、人を惹きつける八巻所長の人柄を形成するものの一つかもしれません」。時にはコンクリート打設につきっきりな八巻所長。ものづくりへの情熱をたぎらせる姿勢が現場に大きな効果をもたらしていた。

次世代に届ける技術と想い



株木建設株式会社
茨城本店 建築部
所長
八巻 博明 Hiroaki Yamaki